

# よりよく生きる

## 中間発表会 2年2組の授業「ヨシト」

### 資料のあらすじ

主人公「僕」は、友達のヨシトのことを学級のみんなが「変わっている」「空気が読めない」などと言う声を聞くようになる。そんなクラスの声に同調し、ヨシトが話し掛けてきたとき、「僕」は嘘を付いてその場を離れてしまう。あるとき、授業中にヨシトのことを悪く書いた紙が回ってくる。僕は、何も言わずに回ってきた紙切れを握り締めた。



そんな中、壊れた自転車のチェーンを直しているヨシトの姿や言動から、ヨシトが家族思いであることを感じる「僕」。「僕」は、腹の底に何か熱い塊が生まれたことを感じた。

「僕」は、どのような気持ちで回ってきた紙切れを握り締めていたのか？

- ・こんなことをされても、何もできていない自分に対する悔しさがあった。
- ・こんなことをして何が楽しいのか・・・。
- ・誰もヨシトのことを助けないから、自分が助けよう。
- ・ヨシトに対して、自分もつらく当たったことに、罪悪感があった。

「僕」が腹の底に感じた熱い塊とは何だろうか？

- ・今まで、ヨシトを守ってあげることができなかつた罪悪感があった。
- ・自分は周りに合わせて、ヨシトのことを考えていなかつた。これからは、ヨシトの一番の理解者になろう。そして、ヨシトを守っていこう。
- ・ヨシトのことを悪く言う人たちを、正しい方向に導きたい。
- ・ヨシトは何もしていない。いじめのような行動はいけない。悔しいし許せないから、ヨシトを守っていこう。

今日の学習や自分自身を振り返って考えたことを書こう。

- ・授業を終えて、アツシくんはすごいなと思いました。理由は、周りに流されず、自分の意思でヨシトくんを守っていたからです。僕がアツシくんの立場だったら、ちょっと迷うかもしれないけど、最終的にはヨシトくんを守るだろうと思いました。空気を読むということは、難しいことだと思いました。

【授業者（得能寛太先生）より】

周りの雰囲気に流されて、自分の取るべき行動が取れない…。これは、皆さんだけでなく、私自身にも該当することだと思います。自分の心の中には、そうした弱さがあることにも気付いて、それをみんなで乗り越えて、よりよい集団をつくっていくことが、大切なことだと感じました。皆さん、今後も、よりよい集団づくりを目指していきましょう！！！